

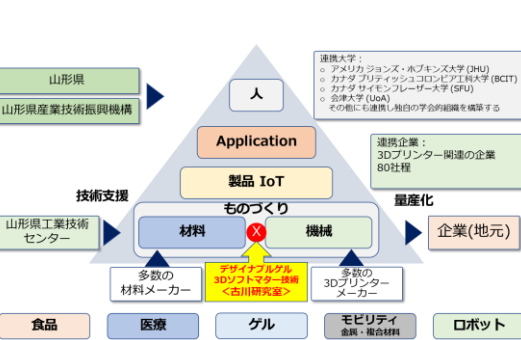
# やわらか3D共創コンソーシアム

【会長：山形大学工学部 教授 古川 英光】



## ■目的

3Dプリンターによるものづくりは、造形精度の高まりと扱える材料の広がりにより、製造業に革命をもたらす技術として注目されるとともに、医療や食品、教育といったさまざまな分野で利用が進んでいる。この技術には、**多様な材料と多様なプリンターの組み合わせにより、新たな産業の創出、ものづくり産業の活性化が期待**されている。「やわらか3D共創コンソーシアム」が**アイデアづくりとそれを実際に形にするための“場”**として、研究機関だけではなく世界の最新技術を持った企業や団体、山形県地元企業等も集まるプラットフォームとなることを目指す。



- ▶ シンポジウムや部会ごとのセミナーで大学の先端研究のフレッシュな情報を提供
- ▶ 部会の参加型ワークショップで未来予測と気づき
- ▶ 進捗管理のサポート
- ▶ 研究の調整、外部資金調達情報の提供、成果公表など企業様と大学の関係がWin-Winになるようサポート
- ▶ 研究課題をサポートする研究員を雇用し、次世代3Dゲル造形技術に精通した人材育成を実施
- ▶ 高校生向けのワークショップなど、ものづくりを通しての将来の人材育成を実施

本コンソーシアムはSIP革新的設計生産技術の成果として、新たに山形大学で立ち上げるコンソーシアムです。

## ■体制

- ・会長 山形大学工学部 教授 古川 英光
- ・事務局長 山形大学国際事業化研究センター センター長、教授 小野寺 忠司
- ・幹事
- ・事務局 山形大学国際事業化研究センター

## ■目指す像

### 材料“30年”を、材料“3か月”に

研究課題の実施や人材育成が新製品・新規事業創出に寄与することにより、3Dプリンティング技術がよりよい社会の構築につながることを目指す。コンソーシアムとしては、実施研究課題を充実させて国際的に名の通った研究開発拠点となることを目指し、会費のほかに国の大型研究費等の外部資金導入、知財収入等により自立した運営体制を確立する。

## ■問合せ

やわらか3D共創コンソーシアム事務局  
 (運営委託先：(株)早稲田大学アカデミックソリューション)  
 MAIL: [soft3d-c@w-as.jp](mailto:soft3d-c@w-as.jp) tell: 03-3208-0102 WEB: <https://soft3d-c.jp>

## ■特徴

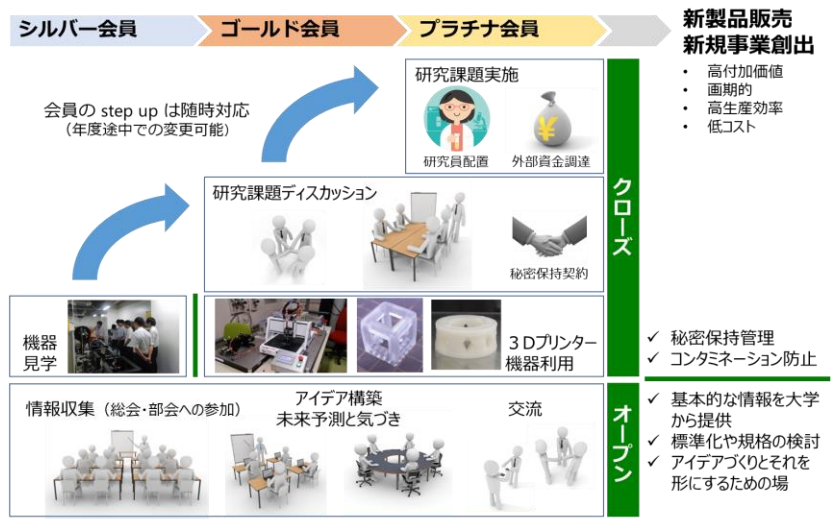
＜部会の設置＞  
 部会を設置し、部会ごとに研究会を開催することで最新の技術を学び、アイデアを創出する場を提供

I	食品	3D食品部会	白物家電メーカー、食品材料メーカー、食品製造業の10年後、20年後のビジネスモデルを模索するとともに、求められる技術を開発
II	医療(接着)	次世代メディカル部会	患者オリジナルのカスタム模型の開発 手術シミュレーション・実習に利用可能な素材と形状に特化した模型の開発(針や糸を不要にする)
III	ゲル(JM, I3ストマ)	3Dゲル部会	ゲル材料の自由造形を可能にする3Dプリンティング技術を開発
IV	モビリティ	3D金属高分子複合部会	射出型金属製造技術による金属(および複合材料)の高密度成形を實踐し、自動車・航空機等のモビリティのこれからの部材生産に必要な技術を開発
V	ロボット	ソフトマターロボティクス部会	3Dプリントできる高性能ゲルを材料とした人工筋肉や人工軟骨、眼内レンズ、指、足等を用いたソフトマターロボティクスを開発

＜会員制度の導入＞  
 プラチナ会員、ゴールド会員、シルバー会員、学会会員と会員区分を設置し、オープン/クローズを明確にする。

	オープン	クローズ
総会への参加	◎	○
部会への参加	◎	○
3Dプリンター機器利用	○	△
研究課題ディスカッション	○	◎
研究課題の実施	○	◎

※ 学会会員、教育機関および公認試験機関は講師あるいは技術指導の立場から学会会員として部会へ参加できる。  
 \* 自社で実施者(研究員)を配置できる場合には研究課題を実施できる。  
 \*\* 参加人数が1名に限られている中小企業等の場合は会長の裁量で年会費を設定する。



**新製品販売 新規事業創出**

- ・ 高付加価値
- ・ 画期的
- ・ 高生産効率
- ・ 低コスト

✓ 秘密保持管理  
 ✓ コンタミネーション防止

✓ 基本的な情報を大学から提供  
 ✓ 標準化や規格の検討  
 ✓ アイデアづくりとそれを形にするための場